

羽はたけ! こどもたち

大堀 寛人

①

むわ、クモの巣に虫が捕ま
っている、「助けてあげ
る」と巣を壊すわ……。虫を
枝でつつきまくり、瀕死の
状態にするのは日常茶飯
事。「いけんよー」と注意
することも、数分後には
加害者になっていること
も。こどもの好奇心は、ち
よつとやそつとでは抑えら
れそうにありません。

「ちゅーりっぷ」の先生
たちは、こどもの残酷さを
「ある程度はおおらかに見
守る」ことにしています。
積極的に「残酷さ」を認め
るわけではありませんが、

むやみに「ダメよー」とは
言わないようにしていま
す。

振り返れば、私も小学生
のころ、かなり残酷な遊び
をしていました。カエルの
お尻にワラを刺し、息を吹
き込んで「カエルの風船」
を作っていました。時々、
膨らまし過ぎてカエルが死
んでしまうことも。しかし
夜になり、布団の中でカエ
ルの姿を思い出し、恐怖と
後悔の念にかられたもので
す。

が芽生えていったように思
います。

跳びはねている昆虫を乱
暴に扱い、動かなくなる……。
そうになると、いくらかわ
りを持とうとしても応えて
はくれません。こどもたち
の心には「死」に対する不
思議な感覚と胸の痛みが残
るはず。きつと自らの内側
から「命」への恐れと尊ぶ
心が生まれるでしょう。

「明日はやめよう」。そ
う心に誓って寝るのです
が、翌日仲間と群れると、
そんなことはすっかり忘
れ、同じことを繰り返して

「死ぬから触ってはいけ
ません」。「かわいそうだ
からダメ!」。そんな言葉
で、大人の「押し付けヒュ
ーマニズム」をこどもの心
に刷り込むべきではないと
思います。自らが痛みを感
じ、自らが気付く経験でな

春の生き物と遊んで

踏んづけたり
……。ダンゴ虫
の受難が始ま
ります。

アリの巣穴
に水を流し込



「シマヘビの赤ちゃんだよ!」。ちょっぴり
こわごわ、でも得意げな子どもたち (園提供)

「命」を尊ぶ心芽生える

いました。しかし、遊びの
です。

後の恐怖と後悔の感情を何
度も体験することで、着実
に小動物に対する慈愛の心

(ふれいすくーる・ちゅー
りっぷ＝広島市西区＝園
長)

くては、本当
の「優しさ」
は育たないの